

今日も無駄ではなかった

いそいで服を着替え、中に入っていた封筒にこの前の解客用紙を入れた。兄貴が隣りの部屋で寝ている様なので、下で聞く事にして、再び、テープやコードを下ろした。

その封筒をセロテープでふさぎ、暗い雨の中を傘もささず自転車に乗り、急いで投函しに行った。六時四十五分迄に出せばよいのだが。

めしを食べ、だいぶ眠たかったので七時頃から寝てしまった。

日記を書き終わると、「ああ、今日も終わりか、また、明日がくる。明日はどの様になるだろうか。どの様な事が起きるだろうか。」

ただ、それを思い、天井を見つめ、静かに目を閉じる。明日起こる事は誰も知らない。それ故、この人生が楽しいものでありうるわけだ。その日の日記を書き終わると、また、「ああ、今日も無駄ではなかった。人生のいち経験として、永遠に残るのだ。」とも感じる。